放課後の児童生徒の居場所事業

自治体名

学校数

岩手県遠野市

小学校 11 校 中学校3校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

- ○仮設住宅…入居戸数 39 戸、入居者数 73 人。
- ○遠野市内への避難者数…個人住宅避難約 53 世帯 85 名。民間賃貸住宅入居 49 世帯 119 名。雇用促進住宅入居 40 世帯 108 名。 仮設住宅入居 39 世帯 73 名。 合計約 181 世帯 385 名

<取組名>

遠野市 放課後子ども教室推進事業

取組概要

実施形態	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)		
(該当に〇)	0					
実施主体•	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所		
場所等	0	約 1,380	456	各地区センター、各小学校		

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化·環境整備	登下校指導	学校行事・その他	
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化·芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他	
					()
放課後等支援	学習支援	体験·交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他	
	0			0	()
家庭教育・	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他	
保護者支援					()
地域課題に応じた	高齢者支援·世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他	<u> </u>
学習·交流					()

放課後子ども教室・・・「鱒沢教室」の紹介

遠野市は、市内全小学校区に児童館・児童クラブが設置されていることから、「放課後子ども教室」を児童の放課後の居場所づくりのみならず、「家庭学習の習慣化」を目的に開催している。教室の開催にあたっては、「学習アドバイザー」や「安全管理員」として地域の方々の協力を得て、家庭学習に取り組む場を提供してしており、地域の中で子どもたちが健やかに育まれる環境づくりに努めている。

鱒沢教室は、小学校内の図書室で放課後子ども教室を実施している。小学校には、児童クラブが併設されており、夏季休業中は、児童クラブにて子ども教室を実施している。授業が終わると、スクールバスや下校の時間まで、放課後子ども教室で学習する、児童クラブで過ごすなど、児童それぞれが放課後の時間を過ごしている。鱒沢教室は、低学年の利用の割合が高いものの、バスまでの少しの時間でも子ども教室に参加しようとする高学年児童も見られ、児童自ら積極的に教室に通っている。

その要因として、放課後子ども教室の開催が5年目を迎え児童らに定着していること、学習アドバイザー等を同じ方々が担当しているため信頼関係が構築されていることが考えられる。今年度は、全校生徒39名全員が子ども教室に参加しており、利用率も非常に高い割合となった。

学校の先生方も放課後教室への参加の呼びかけや、教室の様子を見に来てくださるなど、教室の開催に協力的である。また、夏季休業期間中の開催では、児童クラブの先生方も一緒になって子どもたちを見守っていただき、関係機関である小学校、児童クラブの支援により、放課後子ども教室のスムーズな運営ができている。



準備段階

◇被災による課題

- ・震災により、本市は人的被害こそ少なかったものの、公共施設が被災し、安全に対する備えが必要な状況にある。
- ・沿岸部に隣接する地域であり、支援活動の拠点場所となったことで、被災地からの住民をたくさん受け入れている。 また、避難所や仮設住宅を各地域に開設し、積極的に支援に努めている。このような状況の中で、避難者とのつなが りをつくるための機会の設定や仮設住宅入居による新たな地域コミュニティづくりの必要が生じた。

◇住民等からの要望・必要な取組

- ・放課後の児童の安全・安心をより確保するため、学校及び児童館、地区センター等を活用した放課後の子どもの居場所を継続して設置してほしい。
- ・子どもたちの学習習慣が形成され、学力向上につながる取組を実施してほしい。
- ・地域住民が参画し、子どもたちの成長を支援・協力できる場がほしい。
- ・被災地からの子どもたちが、地域の中でも友だちや地域の大人たちとの交流がもてる環境づくりを進めてほしい。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

【教育委員会生涯学習スポーツ課】 実施主体、企画運営、アドバイザー・ボランティア選定、申請書類作成 【小学校】 活動場所の提供、児童参加の呼びかけ、児童への指導、実施日の調整・連絡

【児童館・児童クラブ】 活動場所の提供、児童への指導、小学校との連絡調整

【地区センター】 活動場所の提供、地域住民への周知

【地域ボランティア】学習アドバイザー及び安全管理員を担当

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・全地区に子ども教室を開設することにより、地域で子どもたちを育てていく意識を高めるとともに、新たなコミュニティづくりのきっかけとし、活性化につながるようにした。また、地区全体に周知・啓発を図ることで、地域全体を巻き込んだ活動とし、子どもたちの成長を見守る土壌を築くようにした。
- ・学校、児童館との連絡調整・情報交換を密にすることで連携をより強化し、子どもたち一人一人の様子をより細やかに見守れるような体制づくりを行った。



成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

平成 19 年度から段階的に教室を実施し、平成 21 年度からは市内全小学校区で開催している。これまでの継続的な取り組みにより、「家庭学習に取り組む場所」として放課後子ども教室が児童らにも定着している。今年度市内中学校が8校から3校に再編成されたなか、学校と地域の方々が関わりの場としても貴重な機会となっている。

◇課題や今後の展望

- ・児童館と放課後子ども教室の機能で重複している部分もあることから、調整及び連携しながら教室の運営にあたる必要がある。
- ・「家庭学習の定着」をより一層推進するためには、放課後子ども教室スタッフ(特に学習アドバイザー)の充実が不可欠であり、人材の確保及び研修等によるスタッフの研鑽が必要である。